

【報道関係各位】

2022 EXHIBITION

## 神戸芸術工科大学 DESIGN SOIL による “harvest” 展を AXIS ギャラリーで開催

神戸芸術工科大学 DESIGN SOIL は、2022年8月26日(金)～9月4日(日)まで、展覧会“harvest”を AXIS ギャラリーにて開催いたします。



神戸芸術工科大学の学生プロジェクト DESIGN SOIL (デザインソイル) は、2011年のサローネ・サテリテへの作品出展に始まり、途中から市内の会場に展示の場を移して8年間ミラノでの作品展示を続けるとともに、さまざまなプロジェクトに取り組んできました。

活動開始から12年目を迎えた今回の展示では、これまでに DESIGN SOIL で生み出してきた作品たちと合わせて、DESIGN SOIL から巣立った卒業生たちの現在の活動の紹介や、彼らの言葉を通して DESIGN SOIL が育んだものを明らかにするとともに、現役の学生たちが新たに取り組んだ作品も展示いたします。

お問い合わせ先

mail : [press@designsoil.jp](mailto:press@designsoil.jp)

web : <http://www.designsoil.jp>

tel : 078 - 794 - 2112 (神戸芸術工科大学)

〒651-2196 神戸市西区学園西町 8-1-1

神戸芸術工科大学 DESIGN SOIL (ディレクター: 田頭章徳)

【タイトル】 ハーベスト 展

【英字タイトル】 harvest exhibition

【会場】 AXISギャラリー（東京都港区六本木5-17-1 4F）

【会期】 2022年8月26日（金）～9月4日（日） 11:00～20:00

（初日は15:00から、最終日は16:00まで）

【主催】 神戸芸術工科大学 DESIGN SOIL

【協力】 AXISギャラリー

【作品点数】 40点程度、60名参加予定（現役学生10名、卒業生50名）

【ポイント】

- ・ DESIGN SOILがこれまでに生み出した作品の中からセレクトした家具・雑貨等の作品を展示。
- ・ 現役学生が取り組んだ、新作の家具作品を展示。
- ・ DESIGN SOILの活動に参加した卒業生の現在の活動や作品を展示。

【DESIGN SOILについて】

DESIGN SOILは、神戸芸術工科大学の学生プロジェクトで、家具やインテリアエレメントを主な対象としてデザイン活動を行うチームです。2010年に活動を始め、2011年にミラン・ファニチャーフェアに初めて出展してから8回の出展を重ね、12年間で80名以上の学生を世に送り出しています。

DESIGN SOILを立ち上げたきっかけは、ミラン・ファニチャーフェアでした。2010年のサローネ・サテリテの大学枠に神戸芸術工科大学が招待を受けて、その年の卒業制作から選んだ作品を展示することになりました。その時に、展示仕器のデザインや制作・展示の担当として現地に赴き、初めてミラン・ファニチャーフェアを体験、自分もこの場に作品を出展したいと思うと同時に、学生たちを巻き込んで一緒に挑戦したいという強い思いを抱きました。

ミラノで見たのは、日本では見たことがない光景でした。

デザインを学ぶ学生が、プロのデザイナーと同じ枠組みで自身の作品をプレゼンテーションし、そこにメーカーの開発担当者、著名なメディアやキュレーター、デザイナーも訪れ、良いものは学生であろうが関係なく、別の展覧会への出展や商品化のオファーがなされる状況、何より、学生がプロのデザイナーたちとフラットに評価され、批評に晒され、議論する場が生まれていることでした。これこそが世界基準のデザイン教育だと感じました。

帰国後、学生を巻き込んで、「学生」としてではなく「デザイナー」として批評を受けられる場、体当たりで挑戦する場として象徴的な、サローネ・サテリテを目指して作品制作をするプロジェクトを立ち上げました。そのプロジェクトには、教育的な意味づけも行いました。

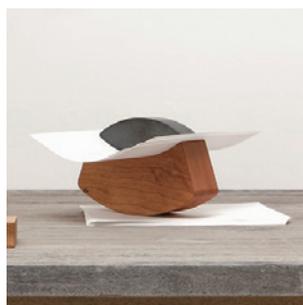
日本では、大学の学生は守られすぎているために、社会に出た時に多くの学生は厳しい現実にあふつかって苦しみます。社会を基準としてみると、学生時代は社会で生き延びていくための力をつける必要がある準備期間であり、学生時代に挑戦や批評を経験することと合わせて、チームの一員として主体性を持って活動することが、より良い人材を育てるにも繋がると考えました。一人一人が自分の作品だけに向き合うのであれば、チームで活動する必要はありませんし、デザインの仕事の多くは、自分以外の他者とのコラボレーションや協働です。学生たち

には、チームから何かを得るためではなく、チームをより良いものにするために自分が何をできるのか考え、個人個人が自分のためだけでなく皆のために成長することを要求しました。そうした経験が、個人ではもちろんチームでもより大きな成果を出せる人材を育てます。

そのために、教員と学生が教える教えられるという関係、指導する側と指導され付いていく側という関係ではなく、教員と学生がフラットに議論し、学生が主体的に考え、動き、議論する状況を作るために、当初は教員も作品を作る立場で参加する形でスタートしました。

学生という種を包み、将来デザインやクリエイションに関わり、高いレベルで活躍していく人材として芽吹かせたいという思いを込めて、プロジェクト名を「DESIGN SOIL」と名付けました。学生だとわかってしまうと批評が受けられない、と考えたため、初出展時は大学のプロジェクトであることを隠し、デザインスタジオや若手デザイナーのコレクティブに見えるように装って出展しました。こうして、学生たちが甘やかされない状況を作ることで、彼らにとって価値のある批評を受ける機会を提供することができたと考えています。

#### 【主な出展作家・作品】



PROP、2011年

RIPPLE、2015年

池内宏行 2011年大学院修了、2014年～2018年 実習助手・メンター  
Hiroyuki Ikeuchi Studio 家具デザイナー

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「世界のレベルを実際に体験したことにより、自身の中で越えなければならない「造形」の基準が大きく変化しました。」



SLASH、2011年

HALF-THROTTLE、2013年

岩元航大 2013年卒業  
Kodai Iwamoto Design プロダクトデザイナー

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「DESIGN SOILでは、学年や肩書を越えてフラットな場でデザインについて議論を行う場づくりを重要視していました。この経験がクリエイター専用のシェア工房を開設する動機になりました。」

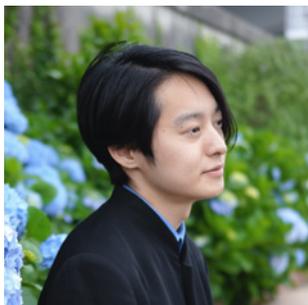


GROWTH、2012年

赤木亮介 2012年卒業

Ryosuke Akagi Studio インテリアデザイナー

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「デザインを生み出す苦しさ、ものを作る難しさ、完成する嬉しさ、評価されることの喜びと厳しさを学びました。」



TRINITY、2013年



A WALL、2016年

大島淳一郎 2015年卒業

プロダクトデザイナー

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「自分が生み出すデザインの”オリジナリティ ”との向き合い方は、DESIGN SOILでのメンバーとのディスカッションを通じた作品制作から大きく影響を受けました。」



KUMONE、2016年

大崎温子 2016年卒業

株式会社Doogdesign プロダクトデザイナー

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「私にとってDESIGN SOILは、自分の中の世界が一気に広がった場所でした。」

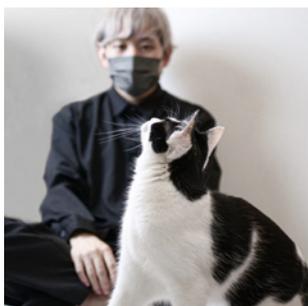


BLUE、2015年

西出瑞穂 2016年卒業

フーコー株式会社 マネージングディレクター

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「何かに一生懸命になることはとてつもなく楽しい。必死に挑戦し続けるのが楽しいことだと感じられるようになったのは、DESIGN SOILの影響が本当に大きいです。それは今も私の仕事生活の基盤になっています。」



QUIET、2018年

コエダ小林 2018年卒業

大学院生、デザイナー

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「DESIGN SOILにおける活動は学校や日本という小さな枠にとらわれていた僕に、世界の広さと表現の豊かさや楽しさを感じさせてくれました。」



HEMMING WAY、2018年

福井月子 2021年卒業

家具制作

DESIGN SOILに参加して得られたこと 「DESIGN SOILは日常をとりまくモノのすてきな見方や好奇心を広げて多くの気づきを育んでくれた場所です。活動で得たアイデアやヒントを連鎖させながらこれからのモノづくりに活かしていきたいです。」



CORKER、2011年



CATHEDRAL、2011年



TRICK、2011年



FADELESS、2012年



ROLLIN' ROLLIN'、2012年



CATENA、2013年



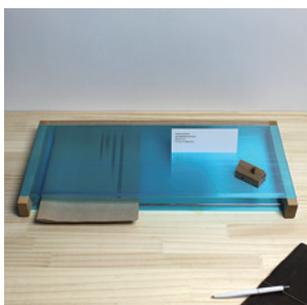
WATER BALANCE、2013年



LEAN、2013年



CRIMP、2013年



MINAMO、2014年



PERCH、2016年



EAVE、2016年



LACUS、2016年



BY THE WINDOW、2016年



SINKING MAN、2018年